

Accuphase

STEREO POWER AMPLIFIER

ステレオ・パワーアンプ

P-6100

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 ございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

5年間の品質保証と保証書

P-6100の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード（保証書発行はがき）」に必要事項を記入の上、必ずなるべく10日以内にご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

*「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは20ページをご参照ください。

*「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品をご確認ください

- 取扱説明書(本書)…………… 1冊
- 安全上のご注意…………… 1冊
- お客様情報の取扱いについて…………… 1枚
- お客様カード(保証書発行はがき) …… 1枚
- 目隠しシール…………… 1枚
- AC電源コード(2m)…………… 1本

目 次

付属品を確認します	表紙裏頁
1. 安全上必ずお守りください	2, 3
△注意、使用上の注意	3
2. 各部の名前と動作	4 ~ 7
フロントパネル	4, 5
リアパネル	6, 7
3. 接続図	8
4. モード切替スイッチの活用	9
NORMAL、BRIDGE、DUAL MONO	9
5. バイワイヤリング方式	10
6. ブリッジ接続	11 ~ 13
ブリッジ接続とは	11
ブリッジ接続に切り替えた時	11
ブリッジ接続するには	12
ブリッジ接続図	13
7. バイアンプ方式	14, 15
バイアンプ方式-① (P-6100を2台使用した例)	14
バイアンプ方式-② (P-6100と別のパワーアンプを組み合わせた例)	15
8. 保証特性	16
9. 特性グラフ	17
10. ブロック・ダイヤグラム	18
11. 故障かな?と思われるときは	19
12. アフターサービスについて	20

警告安全上必ず
お守りください各部の
名前と動作接
続
図モード切替
スイッチの活用バイワイヤ
リング方式

ブリッジ接続

バイアンプ
方式

保証特性

特性グラフ

ブロック・
ダイヤグラム故障かな?と
思われるときはアフターサービス
について

1. 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。



■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。
- ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(15cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気の多い場所では絶対使用しない。

■トップ・プレート(天板)やボトム・プレート(底板)は絶対にはずさない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■脚の交換は危険ですから行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

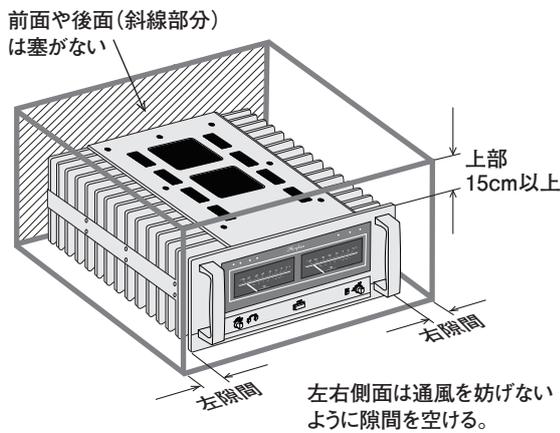
*上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

*万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

警告

■ラック等に設置する場合は、周囲の隙間を十分確保する。

本機の放熱は、自然対流の空冷方式を採用しています。このため、上下の通気孔をふさいだり、周囲の通風を妨げると故障の原因となります。特にラック等に設置する場合は、次の図を参照して、製品左右や上面の隙間を十分確保し、周囲の通風を妨げないようにして、前・後面を密閉したラックは使用しないでください。



注意

■次の場所には設置しない。故障の原因となることがあります。

- 直射日光の当たるところ
- 暖房器具の近く
- 振動や傾斜のある不安定な場所

■本機を重ねたり、他の機器と直接重ねて使用しない。

■スピーカーコード、入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

- RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。
- スピーカーコードの接続が不完全で、コードが外れて本体シャーシや入・出力端子に触れると、アンプの故障やショック・ノイズの原因となることがあります。

■AC電源コードの接続。

本機は消費電力が大きいので、十分に余裕がある室内のコンセントから直接電源を取るようにしてください。

■電源スイッチはプリアンプのボリュームを下げてから切る。

■長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

■電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。

(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

使用上の注意

■本機は、一部のプロテクション回路が作動した場合、出力を遮断するとともに、メーターランプが点滅して警告します。

① 熱に対する保護動作

設置・動作状況などにより、内部温度が異常な高温になると、温度センサーによりプロテクション回路が働き、出力を遮断します。

この場合、一旦電源スイッチを切り、数時間後内部温度が正常になってから、電源スイッチを入れれば復帰します。ただし、機器の周辺を広くとり通風を良くする等の処置をしてください。万一、さらに温度が上昇して、トランス内部の温度が設定値を超えると、電源トランスに内蔵されている温度ヒューズが切断し、電源が遮断されます。但し、温度ヒューズが切断すると自動復帰はしませんので、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

② 異常入力信号に対する保護動作

DC成分を多く含んだ異常信号が入力された場合、プロテクション回路が働き、出力を遮断します。同時にメーター・ランプの点滅により警告します。

この場合、一旦電源スイッチを切り、異常信号が入力しない処置をしてから電源スイッチを入れれば復帰します。

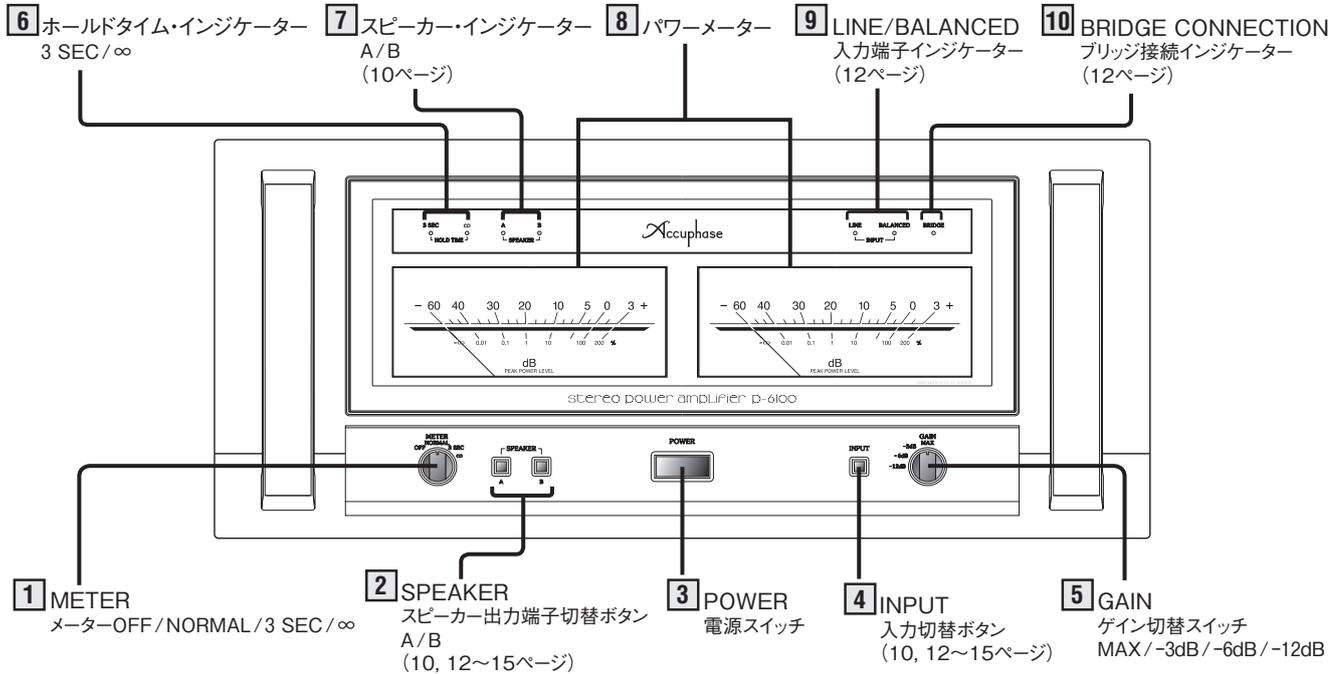
お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

2. 各部の名前と動作

詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



1 METER — メーター ON,OFF/ホールドタイム切替スイッチ



6 ホールドタイム・インジケータ

OFF

メーターの動作が停止し、照明ランプも消灯します。

NORMAL

メーターが通常動作となり、照明ランプも点灯します。

[3 SEC]

6 「HOLD TIME」"3 SEC"のLEDが点灯します。

3秒間、ピーク値を表示します。表示しているピーク値より大きな値が入ったとき、ピーク値をリアルタイムで更新します。

[∞]

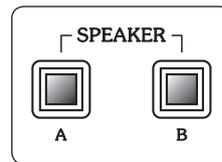
6 「HOLD TIME」"∞"のLEDが点灯します。

* 途中で"∞"ポジションに切り替えたときは、その時点からのピーク値表示になります。

* 電源を切るか他のポジションに切り替えると、表示がクリアされます。

2 SPEAKER : A, B — スピーカー出力切替ボタン

スピーカー端子A、Bに2系統のスピーカーを接続することができ、A、BボタンをON/OFFしてスピーカーの接続を選択します。



7 スピーカー・インジケータ

AまたはB系統のスピーカーの選択をします

ボタンAを押す : A LED点灯、Aスピーカーの出力ON
再びAを押す : A LED消灯、Aスピーカーの出力OFF

ボタンBを押す : B LED点灯、Bスピーカーの出力ON
再びBを押す : B LED消灯、Bスピーカーの出力OFF

① AまたはB LEDが点灯している場合

——点灯しているスピーカーの出力ON
スピーカー端子A、Bどちらか1系統を選択します。

② A B 両LED点灯の場合

——A/B両スピーカーの出力ON (A+B)

2系統のスピーカーを同時に鳴らすことができます。この場合は、インピーダンス4Ω以上のスピーカーを接続してください。A/B端子それぞれから、スピーカーの低音用/中・高音用端子と接続するバイワイヤリングの場合にも、このポジションにします。

* バイワイヤリング方式の説明は10ページを参照してください。

③ A/B 両LED消灯の場合

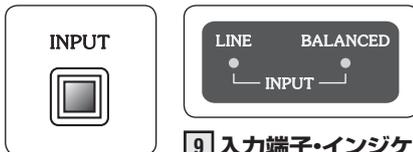
—A/B両スピーカーの出力OFF

プリアンプなどソース機器のヘッドフォンだけで聴く場合や、スピーカーから音を出さない時に選択します。

3 POWER 電源スイッチ

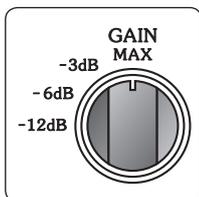
押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約5秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

※電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。
ノイズ発生などの原因となることがあります。

4 INPUT — 入力切替ボタン**⑨ 入力端子インジケータ**

入力信号を接続した、**⑫**入力端子を切り替えるためのボタンです。**⑨**入力端子インジケータが切り替わります。

押してライン : 「LINE」 LED点灯
再び押してバランス : 「BALANCED」 LED点灯

5 GAIN — ゲイン切替スイッチ

増幅部のゲインを4段階に切り替えることができます。

MAX

通常使用するポジションで、ゲインは28dBになります。

-3dB、-6dB、-12dB

MAX時から、ゲインを下げると同時にノイズ成分も下がります。従って、マルチアンプ・システムなどで中・高域スピーカー駆動用として使用し、残留ノイズが気になる場合、またスピーカー・ユニットの能率が高く、他のスピーカー・ユニットとのレベルが合わせにくい場合に大変有効です。

6 「HOLD TIME」 — ホールドタイム・インジケータ

①METERスイッチで切り替えた、ホールドタイム・ポジション(3 SEC / ∞)をLEDの点灯で表示します。

7 SPEAKER — スピーカー・インジケータ

②スピーカー出力切替ボタンで選択したスピーカーのLEDが点灯します。

8 パワーメータ

メータースケールは、出力をdB(デシベル)と%で表示しています。2Ω負荷を基準(0dB : 440W)にして4Ω負荷で1/2倍、8Ω負荷で1/4倍の値が出力になり、正弦波の場合には下記の出力値になります。

出力表示(dB / %)	1Ω負荷	2Ω負荷	4Ω負荷	8Ω負荷	16Ω負荷
0dB: 100%	—	440W	220W	110W	55W
-10dB: 10%	88W	44W	22W	11W	5.5W
-20dB: 1%	8.8W	4.4W	2.2W	1.1W	550mW
-30dB: 0.1%	880mW	440mW	220mW	110mW	55mW
-40dB: 0.01%	88mW	44mW	22mW	11mW	5.5mW

このパワーメータはピークレベル指示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値を表示するように回路が構成されています。したがって、瞬時のピーク値を読みとりやすくするためにメータ指針の立ち上がり時間に比べて、立ち下がりの時間が遅くなっています。また、プログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多く含まれている場合には、聴感上の音量感と多少違った感じになります。

*ブリッジ接続時のメータ指示値は11ページを参照してください。

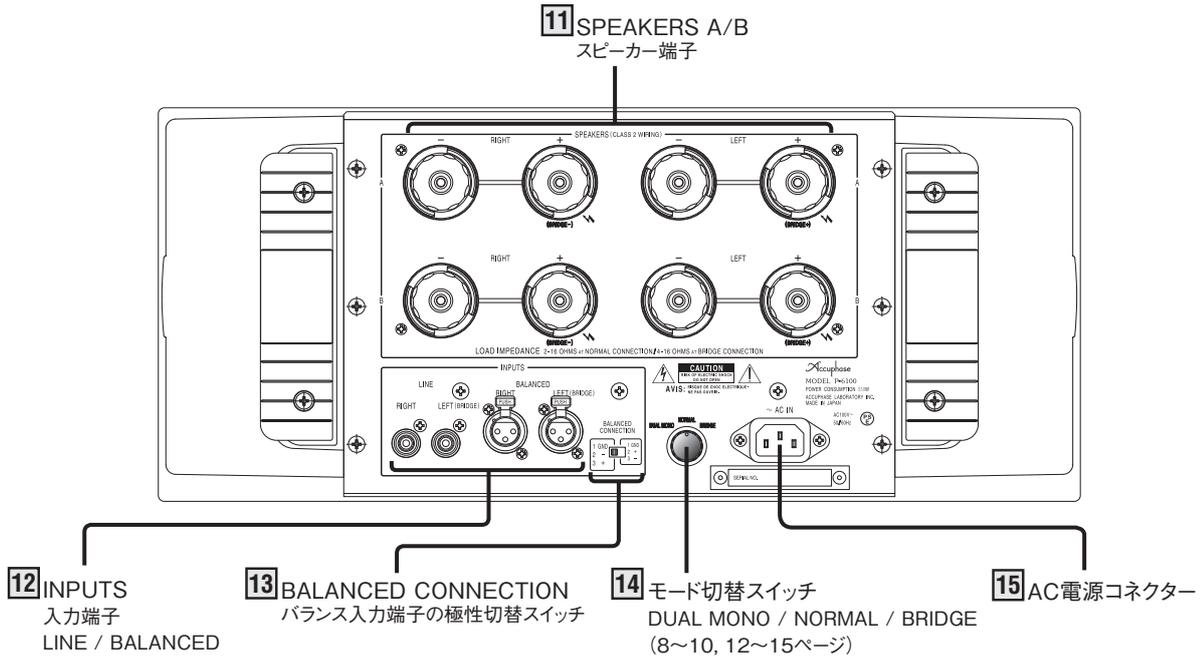
9 LINE/BALANCED — 入力端子インジケータ

④入力切替ボタンで切り替えたポジション(LINE/BALANCED)をLEDの点灯で表示します。

10 BRIDGE CONNECTION — ブリッジ接続インジケータ

リアパネル側の**⑭**モード切替スイッチをBRIDGEに切り替えると、LEDが点灯します。

リアパネル(後面)



11 SPEAKERS — スピーカー端子

スピーカーシステムを接続します。

- * インピーダンスが2 ~ 16Ωのスピーカーを使用してください。
- * ブリッジ接続のときはインピーダンスが4 ~ 16Ωのスピーカーを使用してください。

12 INPUTS — 入力端子

プリアンプの出力を接続します。**4** 入力切替ボタンで入力端子 (LINEまたはBALANCED)を選択してください。

LINE

通常のライン(アンバランス)入力端子です。

BALANCED

バランス入力端子です。

ピンの極性は次のようになっていますので、プリアンプとの極性を合わせて正しく接続してください。

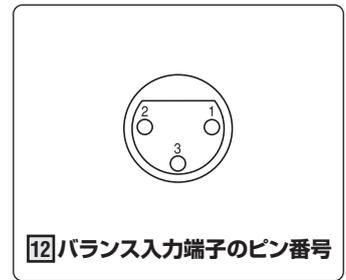
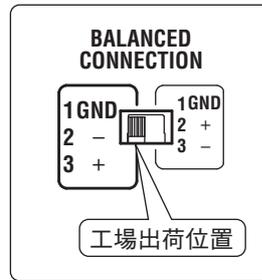


- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノン・インバート(+)

* バランス用オーディオケーブルは当社で別売しています。

13 BALANCED CONNECTION — バランス入力端子の極性切替スイッチ

バランスでプリアンプと接続する場合、プリアンプ側の出力端子と**②**番/**③**番の極性が同じになるように**12** バランス入力端子の極性を切り替えるスイッチです。



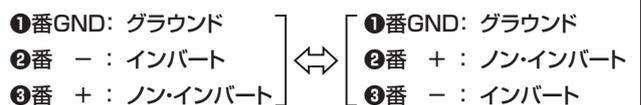
12 バランス入力端子のピン番号

12 バランス入力端子の極性

- 工場出荷時のスイッチ位置は、図のように向って左《**②**番+ : ノン・インバート》側です。
- アクフェーズ製品(一部プロ機器は除く)のバランス入・出力端子は、全て《**②**番+ : ノン・インバート》です。

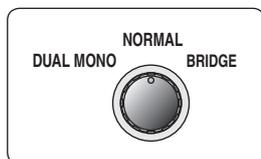
接続するプリアンプのバランス出力端子が、《**②**番+ : ノン・インバート》の場合のみ、スイッチを切り替えてください。

スイッチを切り替えると、バランス入力端子**②**番と**③**番の極性は、次のように変わります。



14 モード切替スイッチ

P-6100の動作を、デュアル・モノ/ステレオ/ブリッジ接続に切り替えるためのスイッチです。



詳しい説明は9ページ参照。

DUAL MONO : スピーカーをバイアンプ駆動する場合のポジションです。

NORMAL : 通常のスtereo使用時でのポジションです。
*ステレオ使用時のバイワイリング方式は10ページ参照

BRIDGE : ブリッジ接続でのポジションです。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

◆注意

- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

各部の名前と動作

15 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

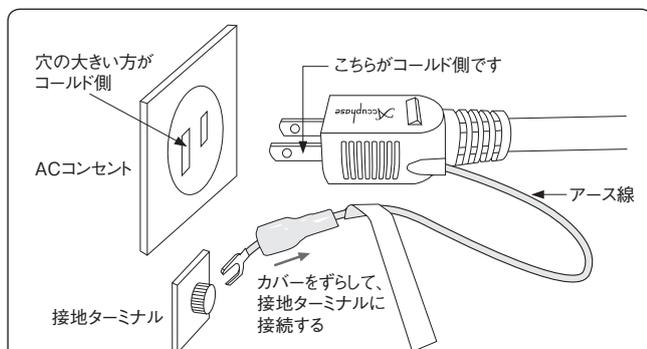
■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

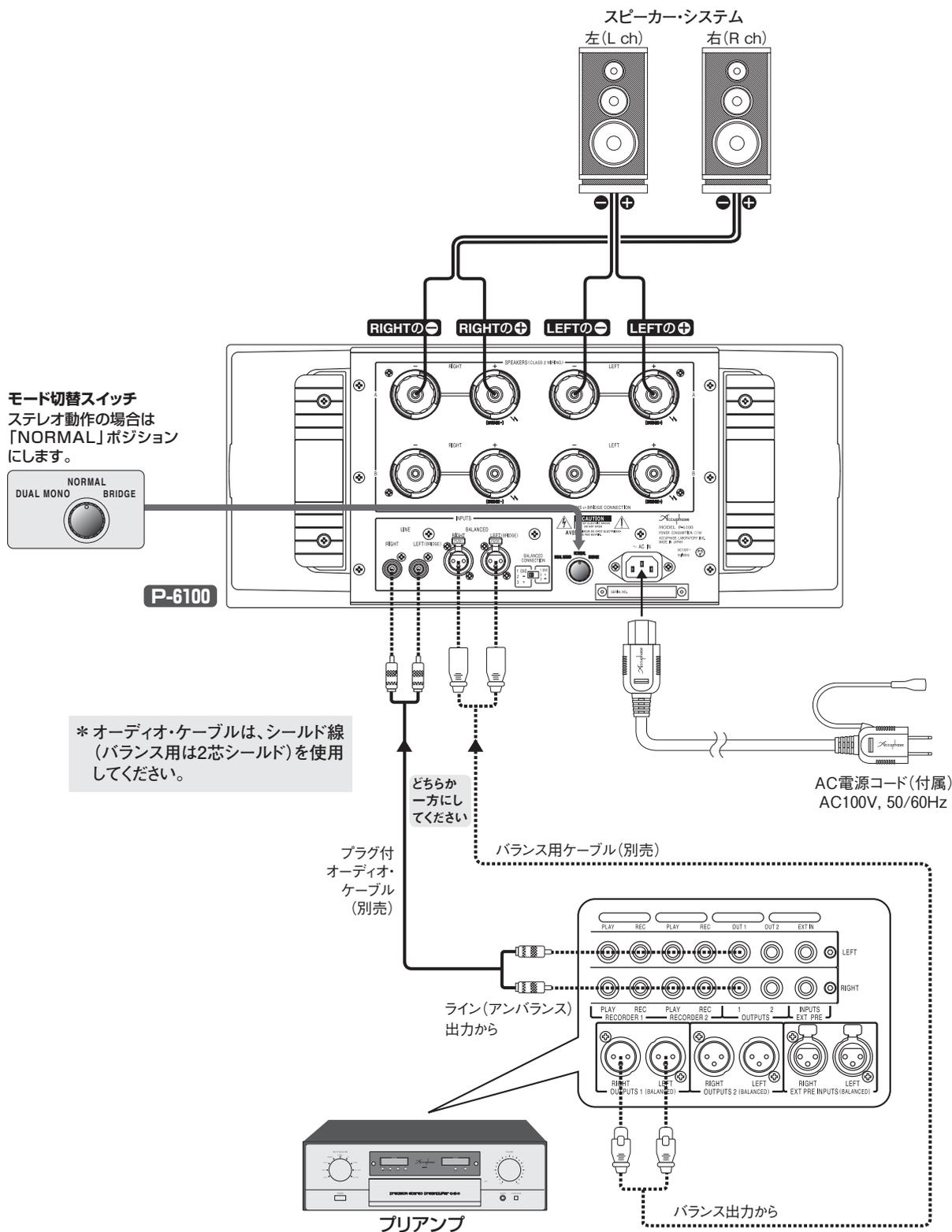


アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

3. 接続図

注意 : 接続にするときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

注意 : ●アナログ入・出力の接続は、オーディオ・ケーブルを使用しLEFT (左)、RIGHT (右)を正しくつないでください。
●バランス用とライン(アンバランス)用ケーブルは、同一機器に同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



4. モード切替スイッチの活用



注意 : モード切替スイッチの切り替えや接続を変えるときは、必ず本機の電源スイッチを切る。

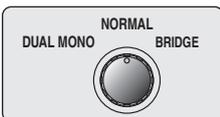
リアパネルの14モード切替スイッチにより、用途に応じてP-6100の動作(デュアル・モノ/ステレオ/ブリッジ)を切替えることができます。

接
続
図

モ
ー
ド
切
替
ス
イ
ッ
チ
の
活
用

NORMAL

通常のステレオ演奏時でのポジションです。



接続方法は、8ページ参照。

*工場出荷時は、NORMALポジションです。

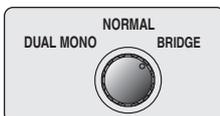
*ステレオ使用時でのバイワイヤリング方式は10ページ参照。

*別のステレオパワーアンプと組み合わせるバイアンプ方式は15ページ参照。

BRIDGE

P-6100はモノフォニックアンプとなりますので、ステレオ演奏に使用する場合には、P-6100が2台必要になります。

ブリッジ接続の詳細は11～13ページ参照。



ソース側機器

プリアンプ



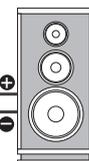
L ch信号を
LEFT 入力端子
へ接続



P-6100 L ch用

LEFTの+

RIGHTの+



左スピーカー

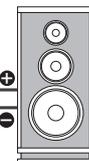
R ch信号を
LEFT 入力端子
へ接続



P-6100 R ch用

LEFTの+

RIGHTの+



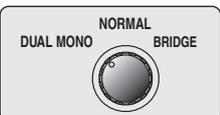
右スピーカー

- P-6100への信号入力は、2台ともLEFT入力端子へ接続します。
- P-6100のスピーカー端子はLEFT/RIGHTとも+端子を使用し、-端子は使用しません。

DUAL MONO

「DUAL MONO」ポジションではバイアンプ方式の演奏が可能です。ステレオで使用する場合には、P-6100が2台必要になります。

バイアンプ接続の詳細は14ページ参照。



- バイアンプ方式は、LOW (低域) 側、HIGH (中高域) 側のスピーカー・ユニットを別々のアンプで駆動します。ネットワークを内蔵し、端子がLOW/HIGH分離可能な、バイアンプ対応のスピーカーが必要です。
- P-6100への入力信号は、2台ともLEFT入力端子へ接続します。(RIGHT端子は使用しません)
- P-6100のLEFT/RIGHT両スピーカー端子とも同一出力となります。

バイアンプ方式の接続例

ソース側機器

プリアンプ



L ch信号を
LEFT 入力端子
へ接続



P-6100 L ch用

LEFTの+

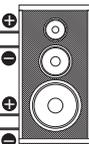
LEFTの-

RIGHTの+

RIGHTの-

HIGH (高域)

LOW (低域)



左スピーカー

R ch信号を
LEFT 入力端子
へ接続



P-6100 R ch用

LEFTの+

LEFTの-

RIGHTの+

RIGHTの-

HIGH (高域)

LOW (低域)



右スピーカー

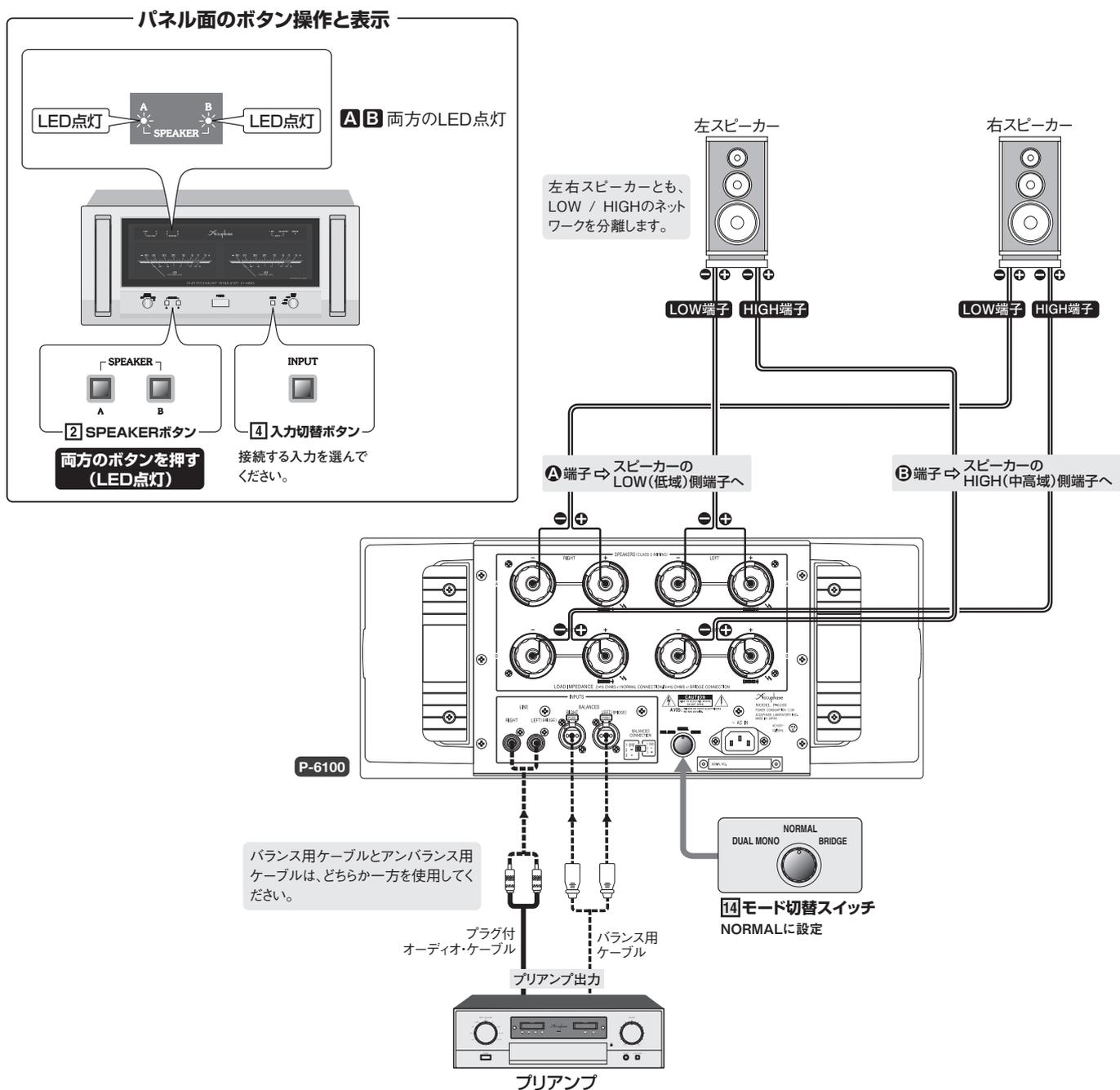
5. バイワイヤリング方式

注意 : 接続にするときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

バイワイヤリング方式は、LOW（低域）側とHIGH（中高域）側のスピーカーを、別々のスピーカーケーブルで接続します。低域と中高域のケーブルを分けることにより、LOW/HIGHの相互干渉を減らし、スピーカーの表現力をアップすることができます。

接続例 ②スピーカー出力切替ボタンのAとBを両方押し、スピーカー A/B 両端子から出力します。

- ネットワークを内蔵し、端子がLOW/HIGH分離可能なスピーカーが必要です。



6. ブリッジ接続

 **注意** : ブリッジ接続にするときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

ブリッジ接続とは

2チャンネルアンプの各入力に、互いに逆位相の信号を入力して、プッシュプル駆動することにより、更に**大出力(4倍)のモノフォニック・アンプ**にすることができます。本機は、リアパネルの「モード切替スイッチ」をBRIDGE側にしますと内部でブリッジ接続に切り替わります。

- ブリッジ接続になるとモノフォニック・アンプになります。
- ステレオで使用する場合には、P-6100が2台必要です。

ブリッジ接続に切り替えた時

■負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になります。

ブリッジ接続になると、1つのチャンネルに対する負荷インピーダンスは、実際の負荷の半分になります。8Ωのスピーカーを接続したときは、チャンネルあたり4Ωのスピーカーが接続されたときと同じになります。本機をブリッジ接続にするときは、4Ω以上のスピーカーをご使用ください。

■増幅度について。

一般的にブリッジ接続になると、増幅度が2倍になります。本機では、使いやすさを考慮して、ブリッジ接続にしても増幅度が変わらない設計になっています。

■パワーメーターの表示。

ブリッジにすると2個のメーターが同一の指示をします。ただし、これは正弦波のような対称波形入力の場合で、音楽や音声信号のようにパルス性の波形や非対称波形が入力された場合には、メーターの指針は同一の値を示しません。

- スピーカーへの出力は、ノーマル時に対して6dB（パワー値は4倍）アップになります。
- 8Ωに対して4Ωでは2倍、16Ωの場合には1/2倍になります。

	4Ω負荷	8Ω負荷	16Ω負荷
0dB	—	440W	220W
-10dB	88W	44W	22W
-20dB	8.8W	4.4W	2.2W
-30dB	880mW	440mW	220mW
-40dB	88mW	44mW	22mW

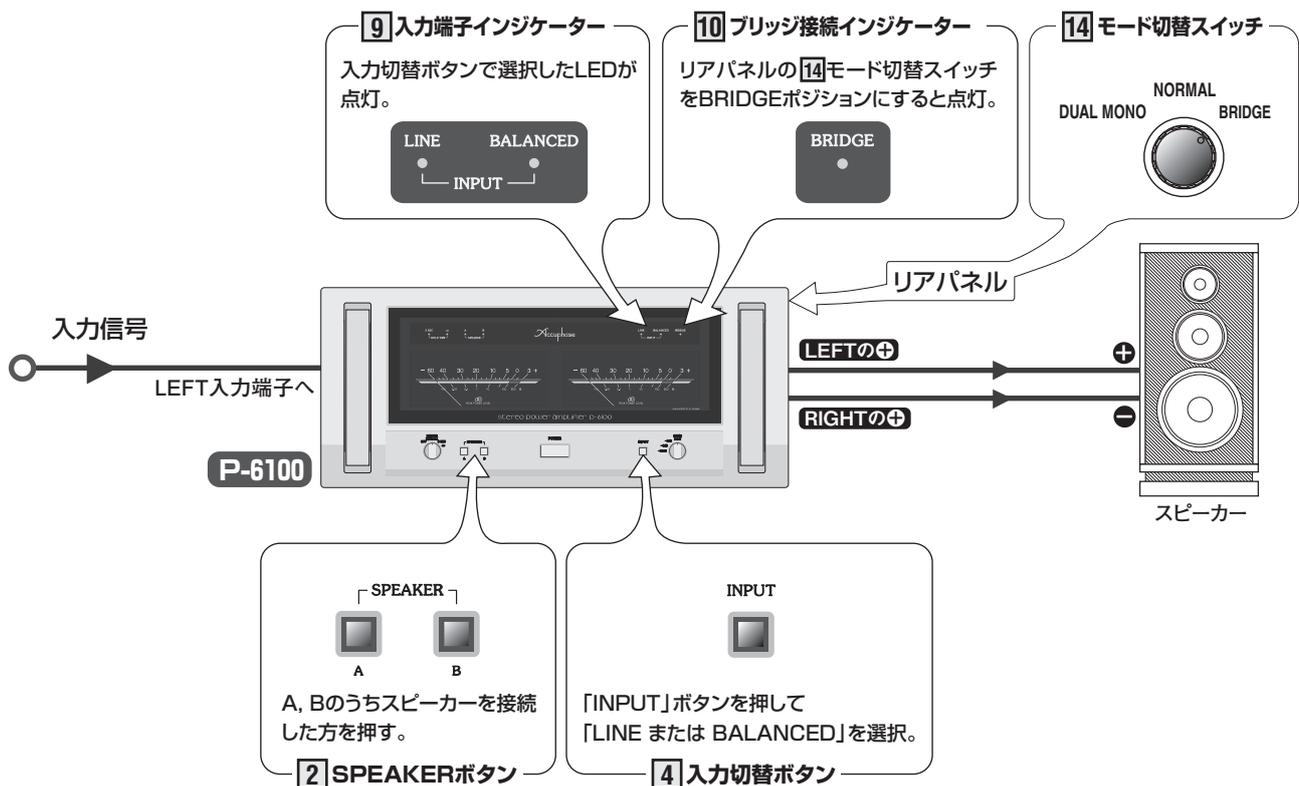
ブリッジ接続にするには

*ステレオ演奏時にはP-6100が2台必要です。接続方法は2台とも同じです。

- 1 P-6100の電源スイッチを切ります。
- 2 **14**「モード切替スイッチ」をBRIDGEに切り替えます。
- 3 入力信号は、INPUTS端子(LINEまたはBALANCED)のLEFT端子に入力します。(RIGHT端子は使用しません)
- 4 「P-6100のSPEAKERS端子」LEFT \oplus \leftrightarrow スピーカーの \oplus 端子
「P-6100のSPEAKERS端子」RIGHT \oplus \leftrightarrow スピーカーの \ominus 端子
を接続します。
*注意：本機のSPEAKERS端子の \ominus 側には何も接続しません。
*SPEAKER端子 A/Bはどちらでも使用できます。フロントパネルの**2**スピーカー切替スイッチで接続する方を選んでください。
- 5 P-6100の電源を入れ、フロントパネルの**4**「入力切替ボタン」で入力した端子(LINEまたはBALANCED)を選択します。
***10**ブリッジ接続インジケータの点灯を確認します。

フロントパネル, リアパネルの操作とインジケータ

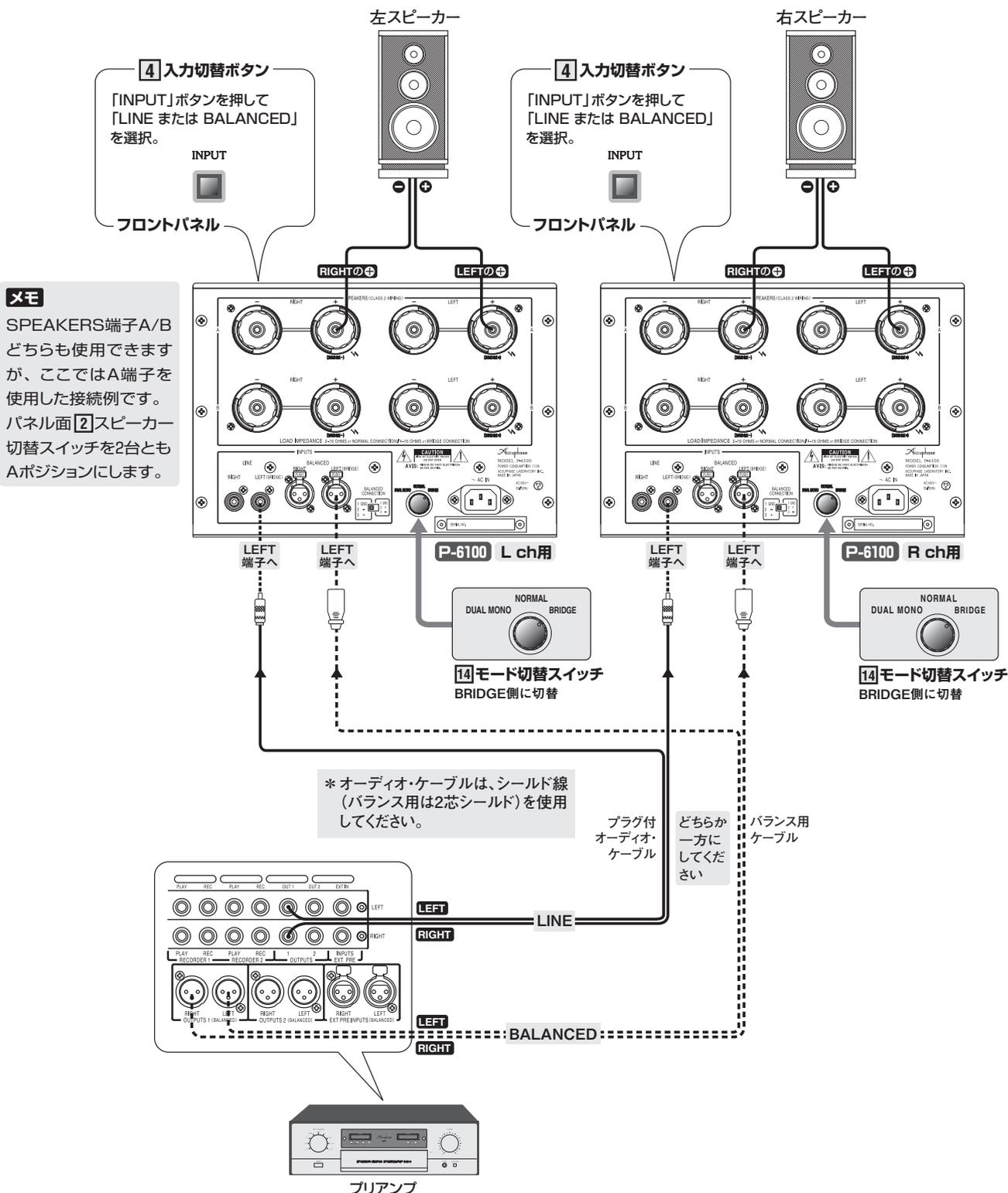
ブリッジ接続にすると、P-6100はモノフォニック・アンプになります。



ブリッジ接続図

注意 : 接続にするときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

- 注意 :
- ステレオで使用する場合は、P-6100が2台必要になります。
 - P-6100への入力信号は、2台ともLEFT端子へ入力します。(RIGHT端子へは接続しません)
 - バランス用とライン(アンバランス)用ケーブルは、同一機器同士で同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



ブリッジ接続

7. バイアンプ方式

注意：接続をするときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

バイアンプ方式は、LOW（低域）側とHIGH（中高域）側のスピーカーを、別々のアンプで駆動し、高音質の演奏を楽しむことができます。ネットワークを内蔵し、端子がLOW/HIGH分離可能なバイアンプ対応スピーカーが必要です。

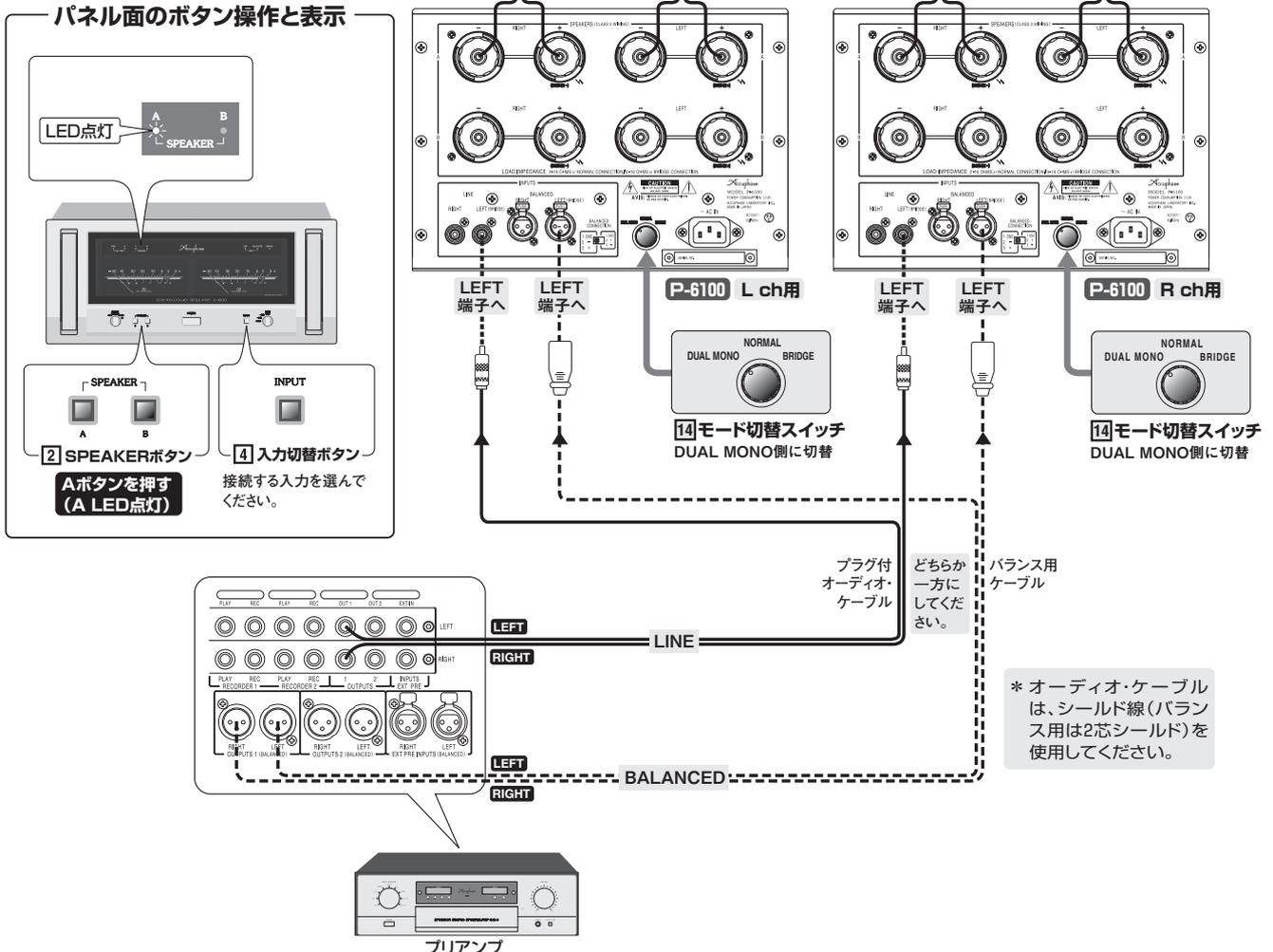
バイアンプ方式-①（P-6100を2台使用した例）

注意：●バランス用とライン(アンバランス)用ケーブルは、同一システム内で混用しないで、どちらか一方のケーブルを使用してください。同一機器へ同時に接続して使用すると、アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

- ステレオで使用する場合は、P-6100が2台必要となります。
- パネル面の[4] INPUTボタンで入力した端子（LINEまたはBALANCED）を選択します。
- P-6100への入力信号は、2台ともLEFT端子へ入力します。（RIGHT端子は使用しません）
- [14]モード切替スイッチは、2台とも「DUAL MONO」ポジションにします。
- パネル面の[5] GAINスイッチは、2台とも同一ゲインにしてください。
- 接続例では、パネル面の[2]スピーカー切替スイッチを、2台ともAポジションにします。

メモ

- SPEAKERS端子A/Bどちらも使用できますが、ここではA端子を使用した接続例です。
- 左右スピーカーとも、LOW/HIGHのネットワークを分離します。



注意：接続にするときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

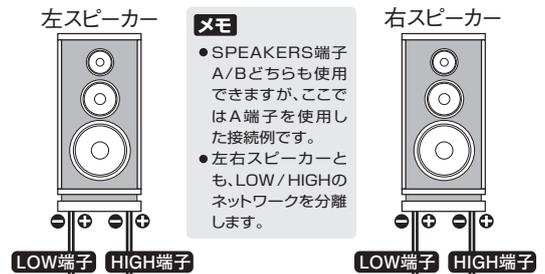
バイアンプ方式-② (P-6100と別のパワーアンプを組み合わせた例)

注意：● バランス用とアンバランス用ケーブルは、同一システム内で混用しないで、どちらか一方のケーブルを使用してください。同一機器へ同時に接続して使用すると、アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

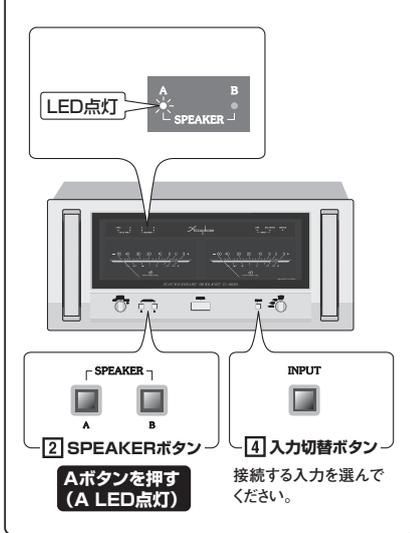
- P-6100と別にもう1台ゲインが同じパワーアンプが必要となります。アキュフェーズのパワーアンプは、全て同一ゲイン(28dB)です。
- P-6100パネル面の[4] GAINスイッチは、MAXまたは組み合わせるパワーアンプと同一ゲインに設定してください。
- プリアンプに2系統の出力が必要です。
- P-6100パネル面の[5] INPUTボタンで入力する端子(LINEまたはBALANCED)を選択します。
- P-4100など組み合わせるパワーアンプの操作・接続は付属の取扱説明書をご覧ください。それぞれのパワーアンプにL, Rを正しくつないでください。
- P-6100[14]モード切替スイッチは、「NORMAL」ポジションにします。
- 接続例では、P-6100パネル面の[2]スピーカー切替スイッチを、Aポジションにします。

イラストの接続例

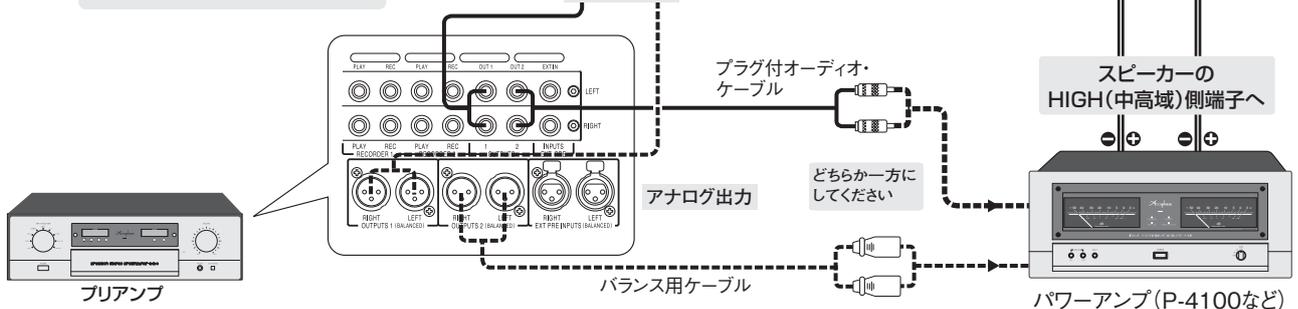
- P-6100のスピーカー端子 ↔ スピーカーのLOW(低域)側端子
- P-4100のスピーカー端子 ↔ スピーカーのHIGH(中高域)側端子



パネル面のボタン操作と表示



* オーディオケーブルは、シールド線(バランス用は2芯シールド)を使用してください。



8. 保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる]

定格連続平均出力 (20 ~ 20,000Hz間)

ステレオ仕様時(両チャンネル同時動作)	
700W/ch	1Ω負荷(※1)
440W/ch	2Ω負荷
220W/ch	4Ω負荷
110W/ch	8Ω負荷

モノフォニック仕様時(ブリッジ接続)	
1,400W	2Ω負荷(※1)
880W	4Ω負荷
440W	8Ω負荷

注意:(※1) 印の負荷は、音楽信号に限る。

全高調波ひずみ率

ステレオ仕様時(両チャンネル同時動作)	
0.05%	2Ω負荷
0.03%	4 ~ 16Ω負荷
モノフォニック仕様時(ブリッジ接続)	
0.03%	4 ~ 16Ω負荷

IMひずみ率

0.01%

周波数特性

定格連続平均出力時	20 ~ 20,000Hz	+0	-0.2dB
1W出力時	0.5 ~ 160,000Hz	+0	-3.0dB

ゲイン(利得): GAINスイッチMAX時

28.0dB(ステレオ/モノフォニック仕様時共)

ゲイン切替

MAX、-3dB、-6dB、-12dB

負荷インピーダンス

ステレオ仕様時	2 ~ 16Ω
モノフォニック仕様時	4 ~ 16Ω

※音楽信号に限り、ステレオ1Ωとモノフォニック2Ω負荷可能。

ダンピング・ファクター

500 (ステレオ/モノフォニック仕様時共)

入力感度(8Ω負荷)

ステレオ仕様時	1.18V	定格連続平均出力時
	0.11V	1W出力時
モノフォニック仕様時	2.36V	定格連続平均出力時
	0.11V	1W出力時

入力インピーダンス

40kΩ	バランス
20kΩ	ライン(アンバランス)

S/N(A補正、入力ショート)

120dB	GAINスイッチ	MAX
125dB	GAINスイッチ	-12dB
定格連続平均出力時		

出力メーター

対数圧縮型、表示消灯機能付
-60dB ~ +3dB (dB/%表示)
ピーク値のホールドタイム切替え: 3秒, ∞

電源

AC100V 50/60Hz

消費電力

170W	無入力時
670W	電気用品安全法(※2)
440W	8Ω負荷定格出力時

注意:(※2)

電気用品安全法の消費電力は、その機種での最大負荷(P-6100は2Ω)で「クリッピング直前出力の1/8」を供給したときの電力値です。

最大外形寸法

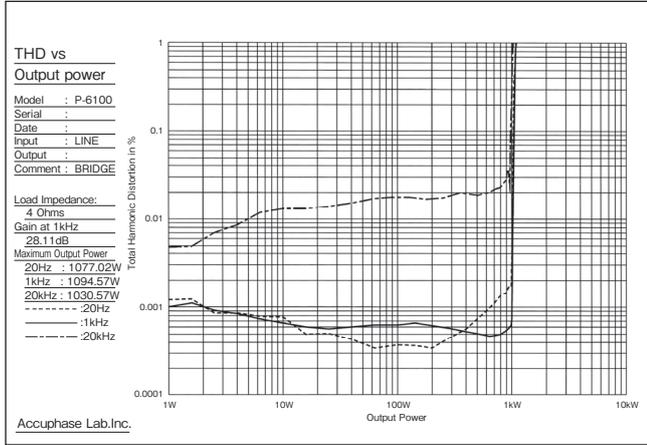
幅465mm × 高さ221mm × 奥行499mm

質量

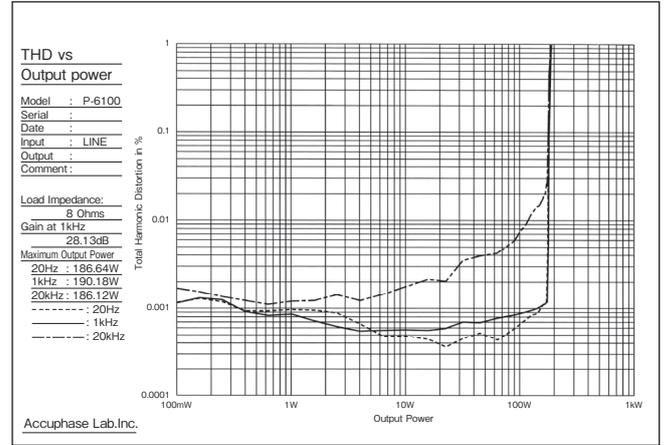
42.7kg

*本機の仕様・特性および外観は予告なく変更することがあります。

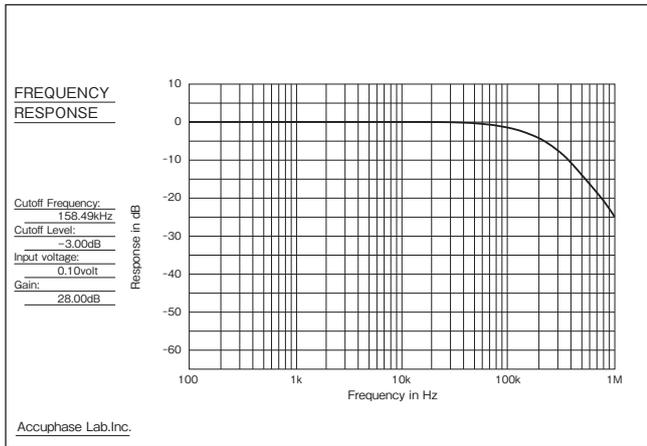
9. 特性グラフ



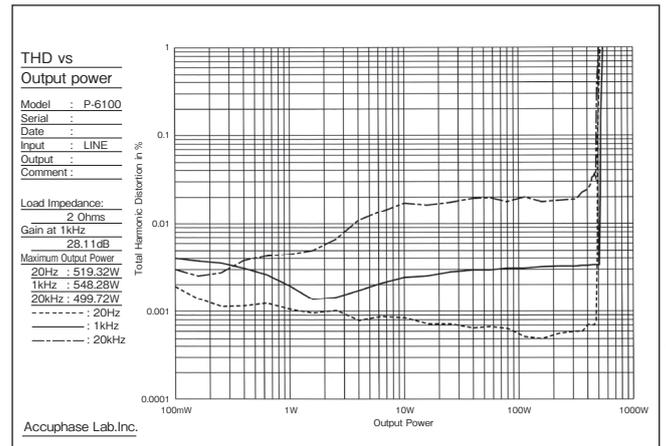
出力電力／全高調波ひずみ率特性
(4Ω負荷、モノフォニック仕様時)



出力電力／全高調波ひずみ率特性
(8Ω負荷、ステレオ仕様時)



周波数特性
(8Ω負荷、ステレオ1W出力時)

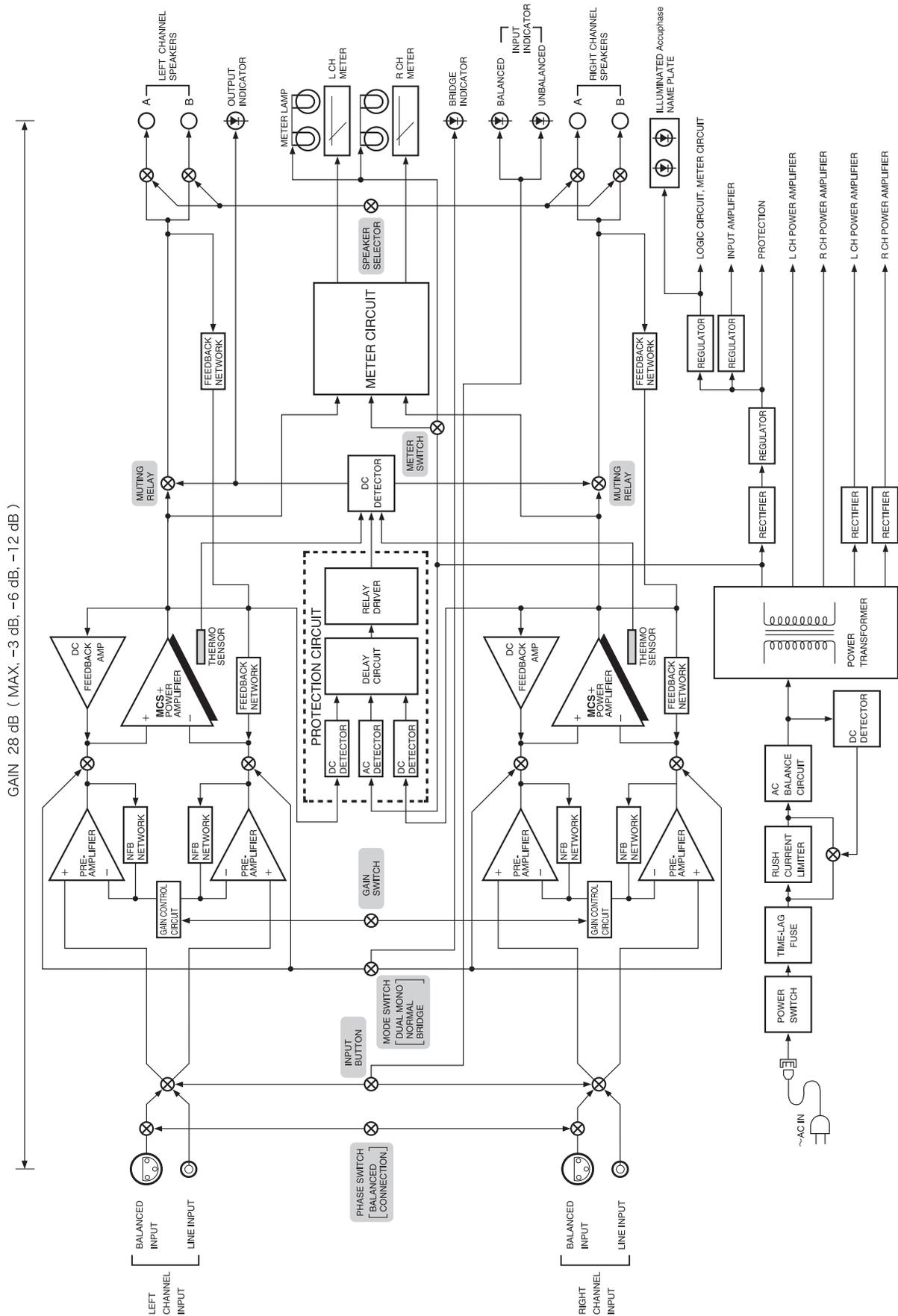


出力電力／全高調波ひずみ率特性
(2Ω負荷、ステレオ仕様時)

保証特性

特性グラフ

10. ブロック・ダイアグラム



11. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



注意

: 接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

- 電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)

音がでない

- プリアンプなどのソース側の電源は入っていますか。
- プリアンプやスピーカーなどと正しく接続されていますか。
- 入力切替ボタンで入力端子を確認します。

片側のスピーカーから音が出ない

- 接続コード、スピーカーコードは正しく接続されていますか。
- プリアンプなどソース側のスイッチ類は正しい位置ですか。
(とくにバランス・コントロールの位置)
- スピーカーコードを左右入れ替えます。
同じスピーカーから音がでない …… コードとスピーカーのチェック
左右逆の状態になる …… 本機やプリアンプ側に原因が考えられます。
- 次に入力接続コードを左右入れ替えます。
同じスピーカーから音がでない …… 本機に原因が考えられます。
左右逆の状態になる …… コードやプリアンプ側に原因が考えられます。

出力がなくなり、 メーター・ランプが点滅する

- 本機は、内部の温度が異常に高くなると、特定のプロテクション回路が作動し出力を遮断します。
3ページの「使用上の注意」を参照してください。

定位感がはっきりしない

- 本機とスピーカー端子の極性(+) (-)は正しく接続されていますか。
- ステレオ再生の場合：リアパネルの14「モード切替スイッチ」は、「NORMAL」になっていますか。7ページ参照。

13. アフターサービスについて

保証書

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を **当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には登録(『品質保証書』の発行が)できないことがあります。
 - *ご購入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

注意 保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川12-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご購入日、ご購入店
- ご住所、氏名、電話番号
- 故障状況:できるだけ詳しく

* 梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2-14-10
〒225-8508 TEL (045)901-2771(代)
<http://www.accuphase.co.jp/>